

平成23年度

# 事業報告書

学校法人 二本松学院

= 目 次 =

項 目	頁
1. 二本松学院の事業概要	. . . . . 4
1-1. 学校法人をとりまく環境と対応	
1-2. 各事業報告	
〔1-2-1〕 京都美術工芸大学の認可	
〔1-2-2〕 海外交流、国際視野	
〔1-2-3〕 ブータン王国夫妻のご来臨視察	
〔1-2-4〕 大日如来坐像の制作	
〔1-2-5〕 効果的な広報の展開	
〔1-2-6〕 事務部門の集約化	
2. 京都美術工芸大学の事業報告	. . . . . 5
2-1. 概況大学設置認可申請関係	
2-2. 開学準備会議等	
2-3. 大学入試関係	
3. 京都建築大学校の事業報告	. . . . . 7
3-1. 概況	
3-2. 各科、各事業の報告	
〔3-2-1〕 建築科	
〔3-2-2〕 建築学科	
〔3-2-3〕 専科	
〔3-2-4〕 放送大学（教養学部）	
〔3-2-5〕 研究室（ゼミ）	
〔3-2-6〕 就職	

項 目	頁
4. 京都伝統工芸大学校の事業報告	・・・・・・・・ 9
4-1. 概況	
4-2. 伝統工芸学科充実への事業報告	
〔4-2-1〕 実技・実習等の充実強化	
〔4-2-2〕 新「漆工芸専攻コース」の発足に向けて	
〔4-2-3〕 国際視野で人材育成強化	
〔4-2-4〕 資格取得	
〔4-2-5〕 大学との調整	
4-3. 地域貢献等課外の実践事業	
〔4-3-1〕 TASK・KASD 合同の学園祭「松葉祭」	
〔4-3-2〕 京の伝統工芸新人作品展「第16回卒業修了制作展」	
〔4-3-3〕 大日如来座像の制作	
〔4-3-4〕 文化財修理活動	
〔4-3-5〕 ブータン国王夫妻 京都伝統工芸館ご見学	
〔4-3-6〕 ブータン国留学生の受け入れ	
5. 二本松学院 財務報告	・・・・・・・・ 13
5-1. 財務の概要	
5-2. 各計算表	
〔5-2-1〕 消費収支計算書	
〔5-2-2〕 資金収支計算書	
〔5-2-3〕 貸借対照表	

## 1. 二本松学院の事業概要

### 1-1. 学校法人をとりまく環境と対応

学校法人二本松学院は学校教育を行い、社会に有為な人材を育成することを目的とします。すなわち、美術工芸に係る教育・研究を行い、併せて教養を身に付けた専門職業人を育成することを理念とする京都美術工芸大学、および、建築・建設を担う次世代の人材を養成することを目標に掲げた京都建築大学校、そして、従来の徒弟制度に代わる技能修得を主とした人材を養成する京都伝統工芸大学校の3教育機関を学校経営し、さらなる発展をめざすものです。

しかしながら、経済環境は、東日本大震災・原発事故にともなう購買意欲の低減、並びに、電力供給の制約、想定を大きく上回る大幅な円高、欧州経済危機を震源とする深刻なリスク波及などを背景に、厳しさが続く雇用情勢、31年ぶりの貿易収支赤字など、予断を許さない状況が続いています。さらに、財政状況が危機的水準に達する中で、本格的な人口減少社会が到来し、国民の多くは社会保障制度の将来に不安を抱くなど、閉そく感が充満する社会環境となっています。

こうしたなか、本学院は、将来の発展の布石として、平成23年度は京都美術工芸大学の認可を受けました。また、フランスの「エコール・ブール国立工芸学校」および「アトリエ・アール・ド・フランス」と連携協定を締結しました。大学開学も、連携協定も、平成24年度以降の具体的展開に向けて、平成23年度はその準備を進めてまいりました。

仕事の効率化をはかるべく、広報担当者の担当地域、学校訪問の統合をしました。また、全事務部門、進路指導部門、広報部門も各館に分散して配置されていたのを、4号館GFアドミニストレーションオフィスへと異動しました。いずれも、24年度以降の効果が期待されます。

「ブータン王国夫妻のご来臨視察」「大日如来坐像の制作」はマスコミにおいても幅広く報道され、本学院の社会貢献をアピールすることができました。

### 1-2. 平成23年度の主たる事業の概要

#### 〔1-2-1〕 京都美術工芸大学の認可

京都美術工芸大学は、平成23年10月24日付けで、文部科学大臣より、学校法人組織変更認可と大学設置認可を受けました。

施設、設備におきましては、京都美術工芸大学開学に伴い、講義実習棟である10号館、図書館、体育館である11号館の各新築および教育研究および管理棟である4号館の改築は平成23年度で工事完了しました。図書、備品の購入も致しました。

#### 〔1-2-2〕海外交流、国際視野

平成23年10月に本学院は、エコール・ブール国立工芸学校と学生・教員の交換留学および作品展の開催にする連携協定を締結しました。

アトリエ・アール・ド・フランス（フランス最大の工芸家協会）とも京都伝統工芸大学校卒業生の展示販売、海外市場開拓に関する連携協定を締結しました。

#### 〔1-2-3〕ブータン王国夫妻のご来臨視察

平成23年11月にブータン王国ワンチュク国王、ジツェン・ペマ王妃および随員27名が京都伝統工芸館にご来臨視察されました。TASK生による工芸制作実演、卒業制作作品等の展示の視察をされました。津波流出松による大日如来坐像へのノミ入れを自らされました。

#### 〔1-2-4〕大日如来坐像の制作

東日本大震災の犠牲者の鎮魂と被災地の復興を祈り、仏像彫刻専攻の学生が中心となり「一万人のひとノミひと削り」プロジェクトを立ち上げ、被災した名勝「高田松原」の松を使って「大日如来坐像」を制作した。

#### 〔1-2-5〕効果的な広報の展開

従来は各学校別に広報担当者が配されていましたが、平成23年度途中からは、その垣根をとり、広報担当者の担当地域、学校訪問の統合をし、効果的な広報の展開をするように致しました。

#### 〔1-2-6〕事務部門の集約化

法人事務局は、1号館西側、京都建築大学校事務部は1号館東側、京都建築大学校進路指導室は2号館、京都伝統工芸大学校の事務部は3号館、大学等設置準備室は4号館に配置されておりました。24年度以降の一体運用、効率化を期して、平成23年度冬に全事務部門、進路指導部門、広報部門を4号館GFへと異動しました。

## 2. 京都美術工芸大学の事業報告

### 2-1. 大学設置認可申請関係

大学設置分科会関係と学校法人分科会関係に分け認可申請を行い、審査を受けた。大学設置分科会では、2回の補正申請と現地調査を受け、10月24日付けで予定どおりの認可となった。一方学校法人分科会では、面接審査と実施調査を受け、同日付けで認可となった。

(1) 大学設置分科会関係

実施日	内 容	場 所
平成 23 年 3 月 25 日	大学設置認可申請書提出	文部科学省大学設置室
5 月 13 日	審査意見伝達	〃
6 月 24 日	補正申請書提出	〃
8 月 4 日	審査意見伝達	〃
8 月 24 日	実地審査	(学) 二本松学院
9 月 2 日	補正申請書提出	文部科学省大学設置室
10 月 14 日	追加教員審査通知(可)	〃
10 月 24 日	設置認可	文部科学大臣

(2) 学校法人分科会関係

実施日	内 容	場 所
平成 23 年 3 月 24 日	組織変更認可申請書提出	文部科学省私学行政課
6 月 23 日	組織変更認可追加書類提出	〃
7 月 28 日	面接審査	〃
9 月 6 日	実地調査	(学) 二本松学院
10 月 24 日	学校法人組織変更認可	文部科学大臣

2-2. 開学準備会議等

大学開学に向け、専任教員を対象に開学準備教員会議を開催し、設置の趣旨・目的に基づく教育課程の実施に向けての協議や、シラバスの調整、個人研究費等についての説明を行った。また1月より3月まで9回にわたって校内関係者による大学開学準備会議を行い、開学に向けての諸準備を行なった。

実施日	内 容	場 所
平成 23 年 8 月 11 日	開学準備教員会議 (第 1 回)	京都伝統工芸館
平成 24 年 2 月 4 日	〃 (第 2 回)	3 号館大会議室
3 月 23 日	〃 (第 3 回)	〃
1 月～3 月 (9 回)	大学開学準備会議	4 号館会議室

2-3. 大学入試関係

大学設置認可後、平成 23 年 11 月から 24 年 3 月にかけて入試を行ないました。

### 3. 京都建築大学校の事業報告

#### 3-1. 概況

平成3年開校し、平成19年に京都建築大学校に校名変更し現在に至っている。

開校当初より「二級建築士・木造建築士」の国家資格を在学中に取得できる。独自のシステム（本科2年制＋専科1・2年制）を構築し、同資格の取得実績は、全国トップを維持している。

#### 3-2. 各科、各事業の報告

##### 〔3-2-1〕建築科

建築科では、建築未経験者を対象としたカリキュラムで建築・インテリアを基礎から総合的に学び、本科卒業後は二級建築士の受験資格が得られる基幹となる科です。23年度は学則改定を行い1年生に基礎造形学を授業として組み込み内容の充実を図り、専科での建築士合格に繋がる各種資格を段階的に取得させるべく取り組みました。

##### 〔3-2-3〕建築学科

建築学科では、4年制の一貫カリキュラムを採用し建築の基礎知識習得に加え、実習・講義を通じてハイレベルな専門知識を修得し、4年卒業時に「高度専門士」を取得できる内容となっている。1・2年生の授業では基礎的内容の理解に努め3年生以降で各科目を合せた内容の課題への取り組みで総合的な建築の理解へと繋げている。知識の習得、演習のみならず、各種資格取得にも力を入れました。

##### 〔3-2-3〕専科

開校以来、最大の強味である「在学中の二級建築士合格者数全国トップ」を維持する為仕組みの変更を行いました。

変更点として、「二級建築士設計製図の授業の少人数制の実施」と「KASD独自の3年次インテリアプランナー講習の実施」です。

学生が資格取得をしやすい教育環境づくりを徹底して実施した。

（平成23年度の主な資格取得実績）

建築CAD技能検定	551名	カラーコーディネーター	162名
インテリアパース	528名	福祉住環境コーディネーター	98名
インテリア設計士	191名	二級建築施工管理技術検定	226名
二級建築士・木造建築士	423名	インテリアプランナー	32名

#### 〔3-2-4〕放送大学（教養学部）

学士号取得率（過去5年間の平均取得率95%）を更に精度を高める為、各クラス毎のカリキュラムの中に教養科目として組み入れスムーズに受講できるように各科目ともチューターを配置し受講者全員の単位取得状況を絶えず開示し必要に応じ個別面談を実施し、卒業要件を満たす指導を徹底した。

〔平成23年度 放送大学（教養学部）学士号取得者は  
放送大学受講生384名のうち349名の実績となった。〕

#### 〔3-2-5〕研究室（ゼミ）

厳しい社会環境の中、即戦力となる専門的職業人として企業から求められる人間力（コミュニケーション力、プロデュース力、プレゼンテーション力）養成と教育内容充実の為に始めた論文系と設計系の研究ゼミも平成23年度は4年目を迎え14研究ゼミとも内容も充実し本校卒業設計制作展でその成果を披露し又各種設計コンペに入選という実績を積むことができた。

これまでは建築科の学生が対象であったが次年度からは建築学科生（転学科生含む）が対象となり更なる成果が期待できる。

#### 〔3-2-6〕就職

就職についても、就職氷河期の再来といわれる厳しい中、大手住宅メーカーを中心にスーパーゼネコン、不動産業界を含む建設産業界に設計職・施工管理職・技術職の本採用として平成23年度も引き続き96.6%と高い就職率となった。

### 4. 京都伝統工芸大学校の事業報告

#### 4-1. 概況

開校後17年目となる今年度は、高度専門課程50名、2年制課程107名、専攻科3名の入学生を迎え、教育内容と就学環境そして就職実績の充実に引き続き取り組んだ。教育内容、就学環境の充実では実習内容の類似性が高い漆工芸専攻と蒔絵専攻の統合を模索するため1年生の実習の一部を合同実習した。

卒業生は高度専門課程32名、2年制課程93名、専攻科8名の計133名であった。就職においては就職希望者88名のうち82名（93%）が関連分野の会社へ就職を果たした。

国際交際の取組みにおいては、これまでのイタリアに加えフランスのエコール・ブール国立工芸学校と交換留学や作品の相互展示などの交流を目的に連携協定を締結した。

また、地域貢献等課外事業では恒例の「秋の学生作品展」を今年度からTASK・KASD合同開催の学園祭として「2011 松葉祭」、学生の成果を発表する「卒業修了制作展」、「清水寺作品展」の開催、そして仏像彫刻専攻の学生が東北大震災で被害を受けた陸前高田の流木松を用い大日如来坐像の制作に取り組んだ。



#### 4-2. 伝統工芸学科充実への事業報告

##### 〔4-2-1〕実技・実習等の充実強化

実習内容、カリキュラムの検討、見直しについては「漆工芸専攻と蒔絵専攻の統合」「竹工芸2年次のカリキュラム」「和紙工芸1、2年生のカリキュラム」において行った。

実習内容、カリキュラムの類似性が高いことにより漆工芸専攻と蒔絵専攻の統合を模索するため1年生の準備基礎工程（実習最初の道具作り）を合同実習した。両コースとも問題はなかった。

竹工芸については、2年次のカリキュラム調整を行ったが、問題はなかった。

和紙工芸については紙漉き実習の充実を図る為カリキュラムを一部変更し、新2年生（24年度）の前半は綾部にて紙漉き実習とし、後半は本校での加工実習とすることとした。（当初は2年生1年間を通じて本校での加工実習であった）

##### 〔4-2-2〕新「漆工芸専攻コース」の発足に向けて

漆工芸と蒔絵の専攻統合については、上記の合同実習の結果に基づき1年余りをかけて検討を行ない平成24年度入学生から両専攻を統合して、漆工芸（髹漆・蒔絵）コースとして新たなカリキュラムでスタートすることが確定した。2年生以上の在學生は従来どおりの専攻コースを継続することとする。

##### 〔4-2-3〕国際視野で人材育成強化

###### (1) イタリアトレント「木のトリエンナーレ展」参画

今年度は国際交流の目覚ましい成果が得られ、従来からのイタリアとの交流の発展事業としてトレント自治県で開催された「木のトリエンナーレ展」への出展及び実演参加をした。

###### 参画内容

- |            |                                     |
|------------|-------------------------------------|
| ・日程        | 平成23年10月16日～23日                     |
| ・出展作品      | 企画展へゆりかご2点 TASK卒業修了作品40点、卒業生作品「五重塔」 |
| ・伝統工芸の制作実演 | 木彫刻、和紙工芸                            |
| ・参加者       | 学生2名、実演者2名、学校関係4名を派遣                |

###### (2) フランスパリ「エコール・ブール国立工芸学校」との連携協定調印

フランス、パリのエコール・ブール国立工芸学校と交換留学や作品の相互展示などの交流を目的に山田京都府知事立会いのもと提携協定調印を行った。（平成23年10月15日）また同時にフランス最大の工芸振興組合（約4500社所属）「アトリエ・アール・ド・フランス」とも連携協定に調印した。

「エコールブール国立工芸学校」との連携協定内容（平成24年度より開始）

交換留学

交換留学学生5名を3週間の日程でそれぞれ交換派遣する。派遣には教員も引率随行（1週間程度）することになっている。

- ①フランスの派遣（10月～11月）
- ②本校からの派遣（11月～12月）

合同作品展

双方の卒業作品展に選抜作品（約30点）を展示出展する。

- ①フランス展への出展（11月～12月）
- ②本校への出展参加（平成25年2月）

その他、双方の作品録など出版物の交換を引き続き実施する。

(3) フランス領事館主催の日仏児童による陶芸づくりの国際交流を実施（12月20日）

〔4-2-4〕資格取得

陶芸専攻においては、以前から資格試験（3級、2級）を設置し陶芸士の認定を行ってきた。漆工芸、木工芸、金属工芸については、昨年より工芸士認定試験の要綱を整備し実施した。その他の専攻では授業での取組姿勢や卒業修了作品を評価基準として認定を行った。

〔4-2-5〕大学との調整

京都美術工芸大学の開学にともない、平成24年度の高度専門課程の一時募集停止を行った。大学のカリキュラムに合わせ、授業時間を1コマ50分から90分へと変更した。

4-3. 地域貢献等課外の実践事業

〔4-3-1〕TASK・KASD 合同の学園祭「松葉祭」

これまでの学生作品展を今年度より TASK・KASD 合同の学園祭「松葉祭」として実施  
実施内容

期 間：	平成23年10月28日から30日
場 所：	本校 3号館、4号館、2号館、8号館
内 容：	作品展示（各専攻の実習作品、デザイン演習・一般教養作品、講師作品） 各専攻において工芸体験、制作実演、作品販売を実施 特別展示 仏像彫刻専攻による「大日如来坐像」 舞台イベント バンド演奏、日本舞踊、地元和太鼓ライブ(小山太鼓) お茶席、模擬店
来場者：	3日間で合計 1,443人（昨年1,300名）
同時開催	伝統工芸ビレッジスペシャル in 南丹
開催日時：	平成23年10月30日（日）午後1時～午後2時30分

会 場：	京都伝統工芸大学校 7 号館カフェテラス
来場者数：	150名
ラジオ放送：	午後1時から午後1時59分までKBS京都「GION ラジオ」公開生放送
内 容：	ステージ 工芸甲子園授賞式 「九里一平氏によるヤッターマンものづくり教室」

〔4-3-2〕京の伝統工芸新人作品展「第16回卒業修了制作展」

2, 3, 4年間の成果を発表するため展示会を開催

実施内容

期 間：	平成24年2月10日～19日
場 所：	京都伝統工芸館 4, 5, 6階
内 容：	卒業修了作品 192点 特別展示 仏像彫刻専攻共同制作 大日如来坐像、聖観音菩薩像 来場者 約2,932名(昨年2,586名 昨年比+346名) 近畿経済産業局長賞、京都府知事賞をはじめ55点の賞を交付 卒業修了作品の中から出展作品30点を選出、イタリアへ出展
同時開催：	「京の伝統工芸新人作品展」 出展作品数 72点
会 場	京都伝統工芸館 1階
期 間	2月10日～3月27日
<p>連携協定を結んでいるパリのエコール・ブール国立工芸学校より学校長ら6名が本展示会視察のため来日(2月13日～19日) エコール・ブール国立工芸学校特別賞2点を交付 出展作品より30点を選出、今秋同校へ出展、展示される</p>	

〔4-3-3〕大日如来座像の制作

工芸制作を通じての社会貢献活動を活発に展開することができた。平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、東北地方は未曾有の被害を被った。その犠牲者の鎮魂と被災地の復興を祈り、仏像彫刻専攻の学生が中心となり、津波で流れ戻り着いた名勝「高田松原」の松を使って「大日如来座像」を制作した。その過程において「1万人のひとノミひと削り」プロジェクトを立ち上げ、岩手県陸前高田市、宮城県塩釜市、大阪市、神戸市、南丹市、京都市等で被災者を含む1万人を超える一般市民の方に鎮魂の祈りと共に、ノミ入れを行って頂く活動は、マスコミ等に継続して取り上げられ社会的に大きな反響を呼んだ。この大日如来座像は、平成24年5月に清水寺に奉納した。

#### 〔4-3-4〕文化財修理活動

天橋立の倒木松や高田松原の津波流出松による仏像づくりなどの実績が広まり、平成23年度に次の2点の修復依頼があった。

- (1) 平成23年10月に京都府の登録文化財である「京丹波能満神社」の鳥居扁額の修理依頼を能満神社の総代会より受け、仏像彫刻専攻が修理修復にあたっている。(平成24年4月初旬完成予定)。
- (2) 平成24年2月に明治6年ウイーン万博の日本館で展示された「大名屋敷の模型」の修理依頼が在オーストリア日本大使館を通じてウイーン民族学博物館より本学院にあった。今後は、京都美術工芸大学とともに修理にあたる。

#### 〔4-3-5〕ブータン国王夫妻 京都伝統工芸館ご見学

国賓として来日されたブータン国王夫妻が京都伝統工芸館をご見学いただいた。

##### 実施内容

日	時	平成23年11月19日 13:40～14:40
場	所	京都伝統工芸館 4階、3階、2階、1階
内	容	実習の様子を見学(竹工芸、蒔絵、木調刻、仏像彫刻、陶芸、金属工芸) 講師、学生作品の見学 制作中の大日如来坐像に「ひとノミ」を入れていただいた

#### 〔4-3-6〕ブータン国留学生の受け入れ

前述のブータン国王夫妻 京都伝統工芸館ご見学の折、留学生2名の受け入れについて要望を受け、平成24年4月よりブータン王国から2名(Thukten Wangchuk, Thinley Norbu)の留学生を受け入れた。受け入れ期間は1年の予定である。

## 5. 二本松学院 財務報告

### 5-1. 財務の概要

#### 平成23年度決算の概要

単年度の収支バランスは「消費収支計算書」で見ますと、学費収入など正味の収入の合計である帰属収入合計は学院全体で23億7,395万円となりました。

各部門は教育改善を重点に取り組み、大学(京都美術工芸大学 工芸学部)開設準備に係る建物、実習機器備品、図書等の創設費の固定資産取得は7億7,032万円で、そのうち未払金(4億864万円)を除き基本金に組入れました。

また、人件費や減価償却費を含む教育・管理経費など消費支出合計は19億9,715万円となりました。

### 5-2. 各計算表

#### 〔5-2-1〕消費収支計算書

消費収支計算書は(表1)のとおりです。

収入の部では、帰属収入が23億7,395万円で、約1,010万円予算を上回ることができました。うち学生生徒等納入金は20億8,949万円、帰属収入の88.0%の構成比率となっています。事業収入は、2億1,278万円で、収入に占める割合は 9.0%です。

次に、基本金に組入れた額は、有形固定資産等の増加に伴う第1号基本金で5億546万円です。

また、帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入は18億6,849万円でした。

消費支出の部は、総額で19億9,715万円で予算を1億1,300万円下回る執行となりました。

消費支出のうち、人件費は5億9,758万円、支出での構成比率は29.9%となっています。

また、教育研究経費は6億6,883万円で、予算より1億2,735万円未執行となりました。支出に占める割合は33.4%となっています。

消費収入から消費支出を差し引いた結果、単年度の収支は1億2,866万円の当年度消費支出超過となりました。

これは、大学設置経費(施設・設備関係等)他の第1号基本金に組入れたことが主な要因となっています。

(表1) 消費収支計算書

(単位 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒納付金	2,091,250,000	2,089,499,000	1,751,000
手数料	25,510,000	17,597,980	7,912,020
寄付金	0	1,121,706	△ 1,121,706
補助金	120,000	116,629	3,371
資産運用収入	18,490,000	20,699,289	△ 2,209,289
資産売却差額	0	329,998	△ 329,998
事業収入	209,520,000	212,783,537	△ 3,263,537
雑収入	18,960,000	31,809,454	△ 12,849,454
帰属収入合計	2,363,850,000	2,373,957,593	△ 10,107,593
基本金組入額合計	△ 297,800,000	△ 505,463,194	207,663,194
消費収入の部合計	2,066,050,000	1,868,494,399	197,555,601
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	595,650,000	597,581,431	△ 1,931,431
教育研究経費	796,190,000	668,839,081	127,350,919
管理経費	687,530,000	726,850,134	△ 39,320,134
借入金等利息	792,000	791,643	357
資産処分差額	0	2,159,833	△ 2,159,833
徴収不能額	0	933,000	△ 933,000
[予備費]	30,000,000		30,000,000
消費支出の部合計	2,110,162,000	1,997,155,122	113,006,878
当年度消費支出超過額	44,112,000	128,660,723	
前年度繰越消費支出超過額	223,068,074	223,068,074	
翌年度繰越消費支出超過額	267,180,074	351,728,797	

## 〔5-2-2〕 資金収支計算書

資金収支計算書は(表2)のとおりです。

収入の部は、前年度繰越支払資金(43億5,849万円)を除く単年度の資金収入は、23億6,033万円となりました。この結果、前年度繰越支払資金を加えると収入合計67億1,883万円となりました。

支出の部では、次年度繰越支払資金(43億528万円)を除く単年度支出は24億1,354万円となり、予算に比較して1億1,602万円減となりました。この結果、次年度繰越支払資金は予算に比して3億470万円減の43億528万円となりました。

資金運用支出として将来の財政基盤の確保のために学院整備引当資産5,000万円、車輛更新引当資産800万円を新規に繰入れました。

(表2) 資金収支計算書

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒納付金収入	2,091,250,000	2,089,499,000	1,751,000
手数料収入	25,510,000	17,597,980	7,912,020
補助金収入	120,000	116,629	3,371
資産運用収入	18,490,000	20,699,289	△ 2,209,289
資産売却収入	0	380,000	△ 380,000
事業収入	209,520,000	212,783,537	△ 3,263,537
雑収入	18,960,000	31,809,454	△ 12,849,454
前受金収入	2,376,425,000	1,970,959,200	405,465,800
その他の収入	67,564,000	44,119,473	23,444,527
資金収入調整勘定	△ 2,026,777,000	△ 2,027,625,443	848,443
前年度繰越支払資金	4,358,497,671	4,358,497,671	
収入の部合計	7,139,559,671	6,718,836,790	420,722,881
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	595,650,000	597,581,431	△ 1,931,431
教育研究経費支出	508,190,000	504,671,251	3,518,749
管理経費支出	658,330,000	577,551,366	80,778,634
借入金等利息支出	792,000	791,643	357
借入金等返済支出	36,183,000	36,183,000	0
施設関係支出	324,790,000	682,504,950	△ 357,714,950
設備関係支出	173,180,000	197,287,898	△ 24,107,898
資産運用支出	78,000,000	83,070,644	△ 5,070,644
その他の支出	129,413,000	148,249,409	△ 18,836,409
[予備費]	30,000,000		30,000,000
資金支出調整勘定	△ 4,960,000	△ 414,342,266	409,382,266
次年度繰越支払資金	4,609,991,671	4,305,287,464	304,704,207
支出の部合計	7,139,559,671	6,718,836,790	420,722,881

## 〔5-2-3〕貸借対照表

貸借対照表の概要は（表3）のとおりです。資産総額は154億8,813万円で、前年度に比べ4.2%増加しています。一方、負債の総額は26億781万円で、前年度に比べ10.4%増となりました。また、基本金と消費収支差額を合わせた額は127億9,247万円で、前年度に比べ、4.9%増加しました。

（表3）貸借対照表

（単位 円）

資産の部		本年度末	前年度末	増△減
科	目			
固定資産		11,174,947,618	10,442,164,672	732,782,946
有形固定資産		10,396,306,300	9,842,387,016	553,919,284
土地		1,841,821,220	1,841,821,220	0
建築物		7,513,204,174	7,078,714,729	434,489,445
構築物		497,948,023	527,054,270	△ 29,106,247
教育研究用機器備品		172,576,613	70,055,635	102,520,978
その他の機器備品		229,240,490	232,196,158	△ 2,955,668
図書		111,686,250	83,026,983	28,659,267
車		29,829,530	9,518,021	20,311,509
その他の固定資産		778,641,318	599,777,656	178,863,662
電話加入権		676,312	676,312	0
施設利用権		2,006,830	2,217,386	△ 210,556
ソフトウェア		52,483,326	38,894,100	13,589,226
有価証券		29,880,000	29,880,000	0
長期前払金		852,602	0	852,602
長期貸付金		96,449,850	0	96,449,850
保険積立金		274,077,886	251,067,075	23,010,811
学院整備引当資産		150,000,000	100,000,000	50,000,000
車両更新準備引当資産		8,000,000	0	8,000,000
保証金		68,969,630	68,080,000	889,630
出資		10,000	10,000	0
同窓会等預り資産		95,234,882	108,952,783	△ 13,717,901
流動資産		4,313,179,507	4,423,719,517	△ 110,540,010
現金預金		4,305,287,464	4,358,497,671	△ 53,210,207
未収入金		1,051,643	1,263,996	△ 212,353
前払金		6,840,400	2,508,000	4,332,400
短期貸付金		0	61,449,850	△ 61,449,850
資産の部合計		15,488,127,125	14,865,884,189	622,242,936
負債の部				
科	目	本年度末	前年度末	増△減
固定負債		115,234,882	158,952,783	△ 43,717,901
長期借入金		20,000,000	50,000,000	△ 30,000,000
同窓会等預り金		95,234,882	108,952,783	△ 13,717,901
流動負債		2,492,576,898	2,203,418,532	289,158,366
短期借入金		30,000,000	36,183,000	△ 6,183,000
未払金		411,834,266	19,991,882	391,842,384
前受金		1,970,959,200	2,026,573,800	△ 55,614,600
預り金		25,502,877	52,600,505	△ 27,097,628
預り保証金		54,280,555	68,069,345	△ 13,788,790
負債の部合計		2,607,811,780	2,362,371,315	245,440,465
基本金の部				
科	目	本年度末	前年度末	増△減
第1号基本金		13,100,158,672	12,594,695,478	505,463,194
第4号基本金		131,885,470	131,885,470	0
資本金の部合計		13,232,044,142	12,726,580,948	505,463,194
消費収支差額の部				
科	目	本年度末	前年度末	増△減
当年度消費支出超過額		351,728,797	223,068,074	128,660,723
消費収支差額の部合計		△ 351,728,797	△ 223,068,074	△ 128,660,723
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計		15,488,127,125	14,865,884,189	622,242,936